

ニュースレター

# いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局  
西表森林環境保全ふれあいセンター  
平成20年12月発行 NO:17号



リュウキュウトロロアオイ

## 木道の起点側に看板設置と木道上にイリオモテヤマネコの糞

木道を効果的に利用して頂くために、木道の入口に看板を設置しました。

看板には、西表亜熱帯樹木展示林の位置図と木道等で観察できる樹木の花や実をカラーで掲示しています。

また、この看板の完成検査を実施した12月15日に、イリオモテヤマネコの糞を木道上で発見しました。この木道周辺はイリオモテヤマネコを含む希少動植物のモニタリングを実施することとしていますので、初めての発見に興奮してしまいました。今後もイリオモテヤマネコの活動状況に注視していきたいと思えます。



木道の入口に設置した看板



イリオモテヤマネコの糞

## JICA研修生が西表島の森林生態等について学習

11月4日(火)、5日(水)、西表島の森林の生態等について学習するため、JICA研修生12名と、引率者及び通訳の2名、総勢14名の訪問を受けました。

西表島の森林、国有林の保護林制度等及び南風見林木遺伝資源保存林のリュウキュウマツの施業経過及び海岸の保安林の整備状況等について説明しました。西表島では早朝に雷を伴った大雨でしたが、研修生が西表島の港に着く頃には雨もあがり、一転して蒸し暑い1日となり、途中途中で水分補給をしながらの現地研修となりました。



現地研修(海岸林の整備)



JICA研修生と講師の一行

## 大分県植物研究会の西表島植物探索を支援

11月11日から3泊4日の行程で、大分県植物研究会（会長 真柴茂彦）一行が、西表島における野生植物の現況と保護等について知見を深めることを目的として来島されました。

会員の中には、大分県内で自然観察会等の指導的立場にある方、森林生態学の研究などを行っている方も参加されていましたが、西表島の亜熱帯植物を目にするのは、初めての方が多く、遠山自然再生指導官の説明に終始メモをとりながら、「九州の植物とは全然違う」「自然が素晴らしい」などの感想がありました。



カンピレーの滝

## 仲間川のマングローブ学習・体験会

12月6日（土）、7日（日）、西表島エコツーリズム協会の司会進行により、仲間川マングローブ学習・体験会（沖縄県主催）が行われました。

初日は、自然観察指導者を対象に琉球大学馬場繁幸教授、西表島エコツーリズム協会伊谷玄事務局長を講師に迎え、座学や仲間川及び西表亜熱帯樹木展示林の木道を利用した実践学習が、二日目は、一般参加者を対象に琉球大学馬場繁幸教授、東部交通藤崎雅夫支配人を講師に迎え、離島振興総合センターでの学習と午後からは仲間川でのカヌー及び観光船による体験会が行われました。



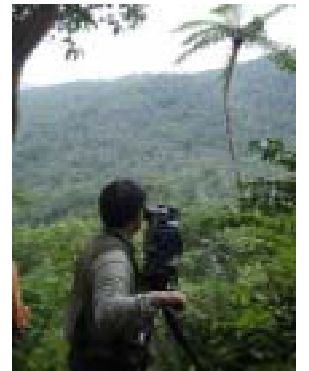
木道での学習会

## ウブンドルのヤエヤマヤシ群落でのDVD取材ロケ

11月17日（月）「日本の森シリーズ『奄美・沖縄』亜熱帯の森」の撮影のため、取材スタッフ3名が来島し、その一コマとしてウブンドルのヤエヤマヤシ群落において、調査模様の撮影が行われました。

当日の早朝は小雨でしたが、カメラが回り始める頃には、チョウもカメラの前を横切る程に天候が回復しました。しかし、雨合羽を脱ぐこともなく、ウブンドルのヤエヤマヤシでの撮影（約2時間）を終了しました。なお、30分間のDVDの中でウブンドルのヤエヤマヤシの割り当て時間は、1～2分程度とのことです。

当センターの活動状況が、例え1分間であってもDVDの映像のワンカットとして組み込まれることは、当センターのPRとなりますので、来年4月以降のDVDの完成を楽しみにしています。



撮影風景

## 平成20年度10, 11, 12月期 ヒナイ川、西田川の利用状況調査報告

ヒナイ川の利用状況調査を10月16日（木）、11月18日（火）、12月15日（月）に実施しました。10月は、カヌーツアーが14組（ガイド含め54名）、トレッキングが1組（2名）計56名、11月は、カヌーツアーが6組（ガイド含め22名）、レンタルツアー（持参含む）が2組（4名）計26名、12月は、カヌーツアーが2組（ガイド含め8名）、レンタルツアーが1組（1名）計9名でした。

また、西田川の利用状況調査を10月17日（金）と12月16日（火）に実施しました。10月は、カヌーツアーが3組（ガイド含め11名）、12月は、カヌーツアーが2組（ガイド含め9名）、レンタルツアーが1組（1名）計10名でした。



10月：ヒナイ川にて

11月：サガリバナをパチリ

12月：サンガラの滝

10月は、未だ汗ばむ暑さが続き、ピナイサーラの滝壺で楽しむ光景が見られました。

11月は、ガイドの話によると「今年は例年に比べ入り込みが少ないようだ。」とのことでした。また、船着き場には季節はずれに咲いたサガリバナが可憐な姿を見せていました。

12月は、修学旅行シーズンも終わったせいか、めっきり少ない利用状況となり、ヒナイ川のカヌー着き場付近の水場には閑古鳥ならぬカラスが水浴びにやって来て、居合わせた観光客は初めて見る光景に目を白黒して喜んでいました。

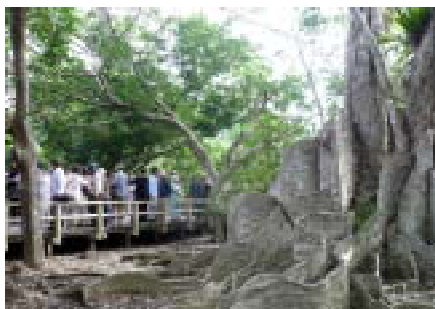


カラスの行水

### 森の巨人百選サキシマスオウノキ・オヒルギ及び船浦のニッパヤシのモニタリングを実施

11月21日（金）、西表島東部の仲間川流域に生育しているサキシマスオウノキ、12月10日（水）、世界最北端に自生する船浦ニッパヤシ、及び11日（木）、浦内川支流のウタラ川上流にあるオヒルギの生育状況及び周辺の地盤高測定などの調査を実施しました。

前回の調査では、昨年強烈な台風などの影響により、枝の折損や葉量の減少などがみられ痛々しい姿でしたが、今回の調査では枝葉の量も増え、また新しい芽も発生していることなどから、順調に回復し生育しているものと思われれます。



サキシマスオウノキ



ニッパヤシ



オヒルギ

### 浦内川・仲間川のマングローブ林のモニタリングを実施

10月10日（金）と27日（月）、浦内川のマングローブ林、12月8日（月）、日本最大規模を誇る仲間川マングローブ林の生長量調査を実施しました。

この調査は、平成17年度より実施しており、今回、稚樹の発生状況及び林内の明るさを測定する開空度を新たに追加しました。今後、調査内容などを取りまとめ、浦内川・仲間川マングローブ林の隆替状況として報告することとしています。



## 海岸林再生試験地の樹高測定などを実施

10月29日(水)、南風見国有林172は林小班外の試験地設定箇所において、平成20年3月に植栽したテリハボク、フクギ、イヌマキにナンバーテープによる個体表示を行うとともに、樹高を測定しました。

各試験地共に、今年9月に襲来した台風(13号・15号)及び夏場の干ばつによる被害は少なく、植栽木は順調な生育をしています。



## 西表島の樹木

今回は、今が見頃の西表島の植物を紹介します。

### サキシマフヨウ(アオイ科フヨウ属)

学名: *Hibiscus makinoi* Jotani et H. Ohba

分布 / 九州西部(福江島、甌島)から琉球にかけて分布

#### 生育環境・形態など

落葉または半常緑の低木または小高木で、高さ2~4mに達します。西表島では10月頃から1月頃にかけて、県道沿いに淡紅色または白色の花が見事に咲いているのを見ることが出来ます。しかし、季節はずれに咲くこともしばしばで、6月頃大見謝付近ではゲットウと競うように咲いているのを見かけました。同属のフヨウは日本各地で栽培され、本州・九州の一部では野生状態で生えています。フヨウとサキシマフヨウの違いは「日本の野生植物 木本」(平凡社)によると、若い茎、花柄、副萼および萼の背面には、フヨウは星状毛に混ざり腺毛が密生する。サキシマフヨウでは星状毛だけが密生し腺毛はない。と記載してありました。なかなか区別は難しいようです。フヨウ属は学名がHibiscus(ハイビスカス)となっています。仲間には両種のほか、ムクゲ、ハマボウ、オオハマボウなどがあります。豪華な園芸品種のハイビスカスだけでなく、このような野生種のハイビスカスも可愛がって下さいね。



サキシマフヨウ(2008.1217 西表島)



西表島美原(2008.1217 由布島入り口付近)



サキシマフヨウとゲットウの花(2007.0604 大見謝)

林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>